

新しい絆を育てる

Ⅱ 多様性の時代に相応しい明専の絆をⅡ

明専会会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとございます。

明専会会員の皆様におかれましては、新しい希望を胸によい年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年もまた、コロナ禍の中、日本は大変な自然災害を被りました。主なるものは、3月16日の宮城・福島の大地震です。2011年3月11日の東日本大震災のことがフラッシュバックする思いでした。また、7月には桜島の爆発的噴火、不気味な思いがする警戒レベル5（避難）でした。また、7月から8月にかけては、北海道・東北・北陸地方を中心に異常な大雨が発生しました。9月の台

風14号は、非常に強い勢力で上陸し、広範で強風・記録的な大雨で大きな被害をもたらし、続く台風15号は、静岡県を中心に記録的短時間大雨となり、大規模な停電、断水といったライフラインに大きな被害が発生、行政の対応の悪さもあって、復旧までに信じられないほど長期間がかかりました。もはや、異常気象とは言えないほど毎年のこととなってきており、災害に備えた対応が重要であると感じております。

そして、何といっても昨年は、プーチンの気違いじみたウクライナ侵攻により、世界情勢は極めて不安定な状態になりました。我が国周辺にも、質・量に優れた軍事力を有する独裁的國家が集中しており、日本一國のみでは困難な安全保障上の課題が山積しており、大きな不安を感じざるを得なくなりました。

さて、昨年の明専会は、コロナ禍

で制限の多い中、「大学・学生の支援」と「同窓の絆強化」の両事業を順調に推進することができました。

昨年は、母校および明専会100周年記念事業として推進してきた学生支援事業（10年間事業）の最終年を迎えましたが、いずれも目標通りの成果を挙げることができました。一方、情報流通の近代化の波に合わせて実施した明専会報のWEB配信化により、大きな経費削減効果を生むことになりました。その削減した金額を積み立てた原資で、明専会創造学習支援（学生プロジェクト支援）を令和5年度から向こう5年間延長することに致しました。

昨年はまた、100周年記念事業の次なる10年間の明専会事業「明専会2020基金事業」母校愛・同窓の絆強化（原資は明専会100周年募金の6400万円）の4つの事業、

- ① 大学研究支援
- ② 学生部活動応援
- ③ 国際ネットワーク強化
- ④ 明トラ活用による絆強化

をスタートさせましたが、いずれも期待以上の滑り出しであったと評価しております。

今年度は、今までに培ってきた同窓の絆に関するあらゆる活動をベースにして、「新しい絆を育てる」ことに力を注ぐことに致します。ここ数年、コロナ禍のためオンライン活用で実施した「めいせんフェス」、「明トラ」、「支部総会」、「講演会」、「新人歓迎会」、「明専スクール」、……などは、担当者の努力により、かなりレベルの高いものになっております。これからは徐々に対面の形へ戻していくこととなりますが、その際、対面とオンラインとのハイブリッドで、絆の輪を倍に拡大する、特に、多様性の時代に合わせた「新しい絆を育てる」ことに繋げていきたいと考えています。

また、2025年（令和7年）に明専会は設立110周年を迎えます。そこで「明専会110周年記念事業検討委員会」を立ち上げて、明専の絆を飛躍的に拡大することに繋がる企画を検討していきたいと思えます。

末筆になりますが、皆様にとってご多幸の年になりますようお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

（いすゞ自動車・理事）